

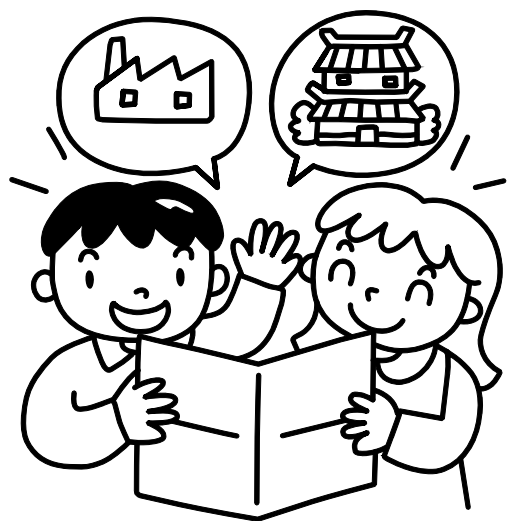
平成 23 年度 高知県教育公務員長期研修生(研究生)

【研究課題】

中学校社会科における思考力・表現力を育成する指導方法及び教材の開発

ワークシート事例集

(地理的分野)



高知県教育センター

研究生 中川 千穂
指導主事 片山 真由美

◆学習指導計画(地理的分野:アジア州)

学習指導要領	<p>項目：(1)世界の様々な地域／ウ 世界の諸地域／(ア)アジア</p> <p>アジア州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、アジア州の地域的特色を理解させる。</p>
単元	アジア州（5時間）
小単元	<p>1 アジア州をながめて（2時間）</p> <p>2 経済成長がいちじるしい東南アジア（1時間）</p> <p>3 経済成長がいちじるしい中国とインド（1時間）</p> <p>4 多様な民族と経済成長（1時間）</p>
評価規準と言語活動とのかわり	<p>【社会的事象への関心・意欲・態度】（主たる言語活動:書く・話す）</p> <p>○アジア州の自然環境、産業、生活と文化、宗教、民族などの地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。</p> <p>【社会的な思考・判断・表現】（主たる言語活動:書く・話す）</p> <p>○アジア州に暮らす人々の生活の様子、暮らしの変化についての的確に把握できる主題を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【資料活用の技能】（主たる言語活動:書く・聞く・話す）</p> <p>○アジア州の地域的特色に関わる様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して読み取ったり、図などにまとめたりしている。</p> <p>【社会的事象についての知識・理解】（主たる言語活動:書く・話す・聞く）</p> <p>○アジア州に暮らす人々の生活の様子、暮らしの変化についての的確に把握できる主題を基に、地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。</p>

◆指導と評価の計画（5時間）

時	学習内容（時数）	評 価					評価規準	評価方法
		関	思	技	知			
1 2	アジア州をながめて (2)		◎	○			<ul style="list-style-type: none"> ・変化に富むアジアの自然について、資料を活用し、必要な情報を読み取っている。 ・雨温図から、季節風の影響について考察し、結果を適切に表現している。 ・「統計資料」を活用し、アジアの人口についてその特色を読み取っている。 ・アジアの多様な民族や宗教、文化について、理解し、その知識を身に付けている。 	行動観察 ワークシート 学習のまとめ
3	経済成長のいちじるしい東南アジア（1）	○	◎		○		<ul style="list-style-type: none"> ・アジア地域の農業の特色と、その変化の概要について意欲的に追究している。 ・アジア NIES と ASEAN について、国家間の結び付きを通して理解し、その知識を身に付けている。 ・アジアの工業化が進んだ背景について多面的・多角的に考察している。 	行動観察 ワークシート
4	経済成長のいちじるしい中国とインド（1）	○			◎		<ul style="list-style-type: none"> ・中国とインドの人口の増加について、統計資料をもとに意欲的に課題を追究している。 ・中国とインドの工業化の進展と課題について理解し、その知識を身に付けている。 	行動観察 ワークシート
5	多様な民族と経済成長 (1)		◎	○			<ul style="list-style-type: none"> ・西アジアと中央アジアについて資料を活用し、その特色を読み取っている。 ・アジアの急速な工業化と課題についてこれまで学習した知識を活用し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 	行動観察 ワークシート レポート

◆ワークシートの見方

ワークシート① アジア州を大きくながめて 1 (生徒用)

1 変化に富む自然環境 ①
 【資料活用の技能】【記述的知識:事実判断(知る)】(書く:個人、聞く:全体)

【作業①】 ○次に挙げる川や山脈は、アジア州の代表的な自然環境です。どの国にあるのか、地図帳を使って調べ、また、特色についても調べなさい。

① ヒマラヤ山脈 ()・()
 ☆最高峰の標高は、8,848mの世界最高峰は？ → ()

2. 長江 () 国名 ()
 ☆主食となる農産物は？ → ()

3. 黄河 () 国名 ()
 ☆主食となる農産物は？ → ()

4. メコン川 () 国名 ()・()
 ☆主食となる農産物は？ → ()

5. インドス川 () 国名 ()

2 変化に富む自然環境 ②
 【社会的な思考・判断・表現】【概念的知識:推理(分かる)】(書く:個人、話す:グループ)

【作業②】 ○次に挙げるシンガポールとコルカタの雨温図に着目し、なぜ、降水量にこのような差があるのか書きなさい。

シンガポール
 年平均気温 27.6℃
 年降水量 2399.0 mm

コルカタ
 年平均気温 27.1℃
 年降水量 1841.7 mm

http://nocs.myvnc.com/study/wld/middleeast2010.htm (雨温図)

【今日の学習のまとめ】
 アジアの自然は変化に富み、大陸北部のシベリアには()帯や()帯が広がり、内陸のウランバートルは、()気候、リヤド()気候が見られる。中央の高地では、()気候となっている。海岸に近い東部は、()により、季節は明確である。

〈ワークシートに示した項目について〉

①【観点別評価規準】

この課題によってつけたい力を評価する観点の種類。

②【習得できる知識の種類と思考の動き】

この課題で習得できる知識、育成される思考力。

※知識の種類と思考の動きについては、岩田一彦氏による「社会的見方・考え方と知識・思考との関係」(2001年)に基づいて設定。

③【言語活動】

この課題について、学習を進めていくにあたっての言語活動の種類。

※この場合は、「個人でワークシートに自分の考えを記述したあとに、全体で自分の意見を述べたり、友だちの意見を聞く」となる。

見方・考え方	知識の種類	思考の動き
社会的見方を構成する要素	事実関係の知識 記述的知識 分析的知識	事実判断 (知る)
社会的見方	説明的知識 概念的知識	推理 (分かる)
社会的考え方	価値関係の知識 規範的知識	価値判断 (考える)

岩田一彦氏による
 「社会的見方・考え方と知識・思考との関係」
 (2001年)

ワークシート① アジア州をながめて 1 (生徒用)

1 変化に富む自然環境 ①

【資料活用の技能】【記述的知識:事実判断(知る)】(書く:個人、聞く:全体)

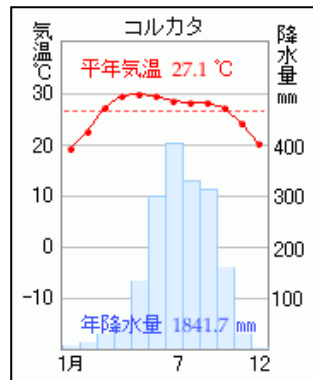
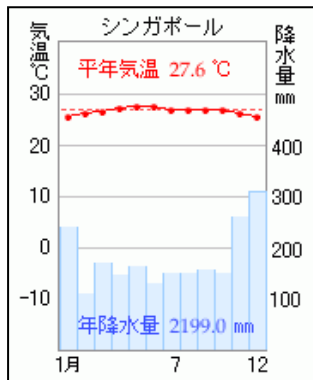
[作業①] ○次に挙げる川や山脈は、アジア州の代表的な自然環境です。どこの国にあるのか、地図帳を使って調べなさい。また、特色についても調べなさい。

1. ヒマラヤ山脈 国名 ()・()
☆8,848mの世界一の山は? → ()
2. 長江 国名 ()
☆主食となる農産物は? → ()
3. 黄河 国名 ()
☆主食となる農産物は? → ()
4. メコン川 国名 ()・()
☆主食となる農産物は? → ()
5. インダス川 国名 ()
☆川の流域には、() 条約に登録されている湿地が広がっている。

2 変化に富む自然環境 ②

【社会的な思考・判断・表現】【概念的知識:推理(分かる)】(書く:個人、話す:グループ)

[作業②] ○次に挙げるシンガポールとコルカタの雨温図に着目し、なぜ、降水量にこのような違いがあるのか書きなさい。



<http://nocs.myvnc.com/study/wld/middleeast2010.htm> (雨温図)

【今日の学習のまとめ】

アジアの自然は変化に富み、大陸北部のシベリアには () 帯や () 帯が広がり、内陸のウランバートルは、() 気候、リヤドは、() 気候が見られる。中央の高地では、() 気候となっている。
海岸に近い東部は、([])により、四季は明確である。

ワークシート① アジア州をながめて 1 (教師用)

(発問・解答・評価規準)

1 変化に富む自然環境 ①

【資料活用の技能】[記述的知識:事実判断(知る)](書く:個人、聞く:全体)

[作業①] ○次に挙げる川や山脈は、アジア州の代表的な自然環境です。どこの国にあるのか、地図帳を使って調べなさい。また、特色についても調べなさい。

1. ヒマラヤ山脈 国名：(ブータン、中国、パキスタン、アフガニスタン、インド、ネパール)のうち、2つ記入できていること。
☆8,848mの世界一の山は？ →(エベレスト山)
2. 長江 国名：(中国)
☆主食となる農産物は？ →(米)
3. 黄河 国名：(中国)
☆主食となる農産物は？ →(小麦)
4. メコン川 国名：(ミャンマー、ラオス、タイ、カンボジア、ベトナム)のうち、2つ記入できていること。
☆主食となる農産物は？ →(米)
5. インダス川 国名：(インド、パキスタン)のうち、1つ記入できていること。
☆川の流域には、(ラムサール)条約に登録されている湿地が広がっている。

【評価規準】

12～10 問正解・・・A

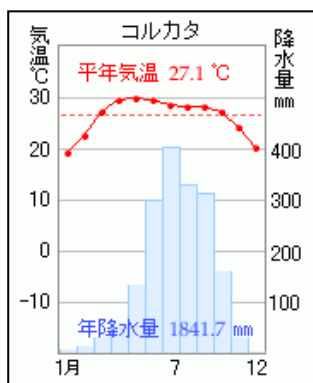
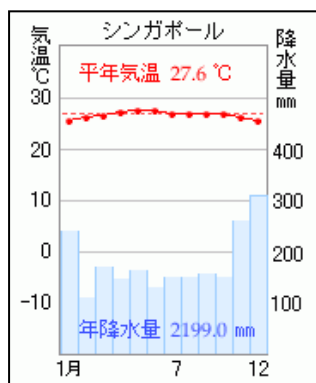
9～6 問正解 B・・・B

5 問以下の正解 C・・・C

2 変化に富む自然環境 ②

【社会的な思考・判断・表現】[概念的知識:推理(分かる)](書く:個人、話す:グループ)

[作業②] ○次に挙げるシンガポールとコルカタの雨温図に着目し、なぜ、降水量にこのような違いがあるのか書きなさい。



アジア州に暮らす人々の生活の様子、暮らしの変化についての的確に把握できる主題を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。

(単元の評価規準)

[評価規準をもとに、B評価となる場合]

シンガポール、コルタカは、ともに**熱帯の気候に属している。一年をとおして高温、多雨**である。シンガポールでは一年じゅう雨が降るのに対し、コルタカでは、**雨季と乾季**がある。そのため、二つの都市で**降水量に違いが見られる**。
その**要因は、モンスーンの影響**である。

[評価規準をもとに、B評価となる根拠]

- ・2つの都市の雨温図を比較し、降水量の違いを読み取れている。
- ・降水量の変化がモンスーンの影響によることを読み取れている。

[評価規準をもとに、A評価となる場合]

シンガポール、コルタカは、ともに**熱帯の気候に属している。一年をとおして高温、多雨**である。シンガポールでは一年じゅう雨が降るのに対し、コルタカでは、**雨季と乾季**がある。そのため、二つの都市で**降水量に違いが見られる**。
その**要因は、モンスーンの影響**である。**インドシナ半島やインド半島のコルタカなどでは、インド洋からのモンスーン**によって、雨季と乾季に分かれている。
一方、**シンガポールなどの赤道付近**では、一年じゅう高温で雨が多く降る。

[評価規準をもとに、A評価となる根拠]

- ・地理的な条件についても、具体的に述べている。

[評価規準をもとに、C評価となる場合]

シンガポールとコルタカは、ともに**熱帯の気候に属している。一年をとおして高温、多雨**である。

[評価規準をもとに、C評価となる根拠]

- ・2つの都市の雨温図を比較し、降水量の違いについて読み取れていない。
- ・降水量の変化がモンスーンの影響によることを読み取れていない。

【今日の学習のまとめ】

アジアの自然は変化に富み、大陸北部のシベリアには(**寒**)帯や(**冷**)帯が広がり、内陸のウランバートルは、(**ステップ**)気候、リヤドは、(**さばく**)気候が見られる。中央の高地では、(**高山**)気候となっている。
海岸に近い東部は、(**季節風【モンスーン】**)により、四季は明確である。

※ アジア州が変化に富んだ自然条件であることを感じさせるための問題。
復習の課題として活用することができる。

ワークシート② アジア州をながめて 2 (生徒用)

1 都市化が急速に進むアジア

【資料活用の技能】【記述的知識:事実判断(知る)】(書く:個人、話す:全体)

[作業①] ○統計資料を使って、世界で人口の多い国を調べなさい。

☆世界の人口 約 () 億人 () 年

	国名	人口 (万人)		国名	人口 (万人)
1 位			6 位		
2 位			7 位		
3 位			8 位		
4 位			9 位		
5 位			10 位		

[作業②] ○アジアのなかで、1 km²あたりの人口密度が 300 人を越える国を探しなさい。

--

2 入り交じる文化

【社会的事象についての知識・理解】【規範的知識:価値判断(考える)】(書く:個人、話す:グループ、全体:聞く)

[作業③] ○アジアは、多様な民族や宗教から成り立ち、文化や生活習慣もさまざまです。次の挙げる国々に共通していることがらについて、キーワードを参考に考えて書きなさい。

○日本・韓国・中国 (食文化)

--

○インド・トルコ (主食)

--

○ベトナム・中国 (主食)

--

○マレーシア・インドネシア・トルコ (宗教)

--

○タイ・ミャンマー・カンボジア (宗教)

--

ワークシート② アジア州をながめて 2 (教師用)

(発問・解答・評価規準)

1 都市化が急速に進むアジア

【資料活用の技能】[記述的知識:事実判断(知る)](書く:個人、話す:全体)

[作業①] ○統計資料を使って、世界で人口の多い国を調べなさい。

☆世界の人口 約 (69) 億人 (2010) 年

	国名	人口 (万人)		国名	人口 (万人)
1 位	中国	13,5400	6 位	パキスタン	18,500
2 位	インド	121,400	7 位	バングラデシュ	16,400
3 位	アメリカ	31,800	8 位	ナイジェリア	15,800
4 位	インドネシア	23,300	9 位	ロシア	14,000
5 位	ブラジル	19,500	10 位	日本	12,700

※ ここでの統計資料とは、教科書のさくいんや地図帳の統計資料のこと。

※ この数値は、総務省統計局(2010年)に基づく。

[作業②] ○アジアのなかで、1km²あたりの人口密度が300人を越える国を探しなさい。

日本(342)、イスラエル(331)、インド(350)、韓国(487)、シンガポール(5131)、バーレーン(1461)、バングラデシュ(1003)、フィリピン(302)、モルディブ(1032)

(地域)台湾(637)、ホンコン(6320)、マカオ(18705)、パレスチナ(635)

()内は、1km²あたりの人数

【評価規準】[作業①]

10～8問正解・・・A

7～5問正解・・・B

4問以下の正解・・・C

【評価規準】[作業②]

9～8問正解・・・A

7～5問正解・・・B

4問以下の正解・・・C

2 入り交じる文化

【社会的事象についての知識・理解】[規範的知識:価値判断(考える)](書く:個人、話す:グループ、全体:聞く)

[作業③] ○アジアは、多様な民族や宗教から成り立ち、文化や生活習慣もさまざまです。

次の挙げる国々に共通していることがらについて、キーワードを参考に考えて書きなさい。

○日本・韓国・中国(食文化)

はしを使う。

○インド・トルコ(主食)

主食は小麦を使った(パン)料理が多い。

(※ ただし、トルコは、歴史的な背景から、米を食べるところもある。)

- ベトナム・中国（主食）

主食は米である。

（※ ただし、中国の華北、東北地方は小麦粉で作ったマントウを食べる場合がある。）

- マレーシア・インドネシア・トルコ（宗教）

多くの人々が、イスラム教を信仰している。

- タイ・ミャンマー・カンボジア（宗教）

多くの人々が、仏教を信仰している。

【評価規準】[作業③]

5～4問正解・・・A

3問正解・・・・・・B

2問以下の正解・・・C

ワークシート③ 経済成長のいちじるしい東南アジア (生徒用)

1 農村のくらしの変化

【社会的事象への関心・意欲・態度】[記述的知識:事実判断(知る)](書く:個人、話す:全体)

[作業①] ○アジア地域でさかんな農業とその変化について、下の語群から当てはまる言葉を選んで書きなさい。

大きな川の流域の平野やジャワ島などでは、**季節風**(モンスーン)の影響を受けて降水量が多く、()がさかんです。年2回米をつくる()ができる地域もあります。

1970年代には、農業の近代化が進み、新しい品種がつくられたり、かんがい設備が整備されました。機械化によって人手が余ると、働く場を求めて多くの若者が農村から都市へと出て行きました。

マレーシアやインドネシアなどでは、**プランテーション(大農園)**がつくられ、ゴムやコーヒーを栽培しています。その一方、アブラやしの農園にする大規模な開発が進み、()が減少するという問題も起こっています。

【語群: 牧畜 小麦 稲作 ニ毛作 二期作 熱帯雨林】

2 アジアの産業の変化

【社会的事象についての知識・理解】[説明的知識:推理(分かる)](書く:個人、話す:グループ)

[作業②] ○アジア NIES と ASEAN について、正式名称と加盟国をそれぞれ書きなさい。

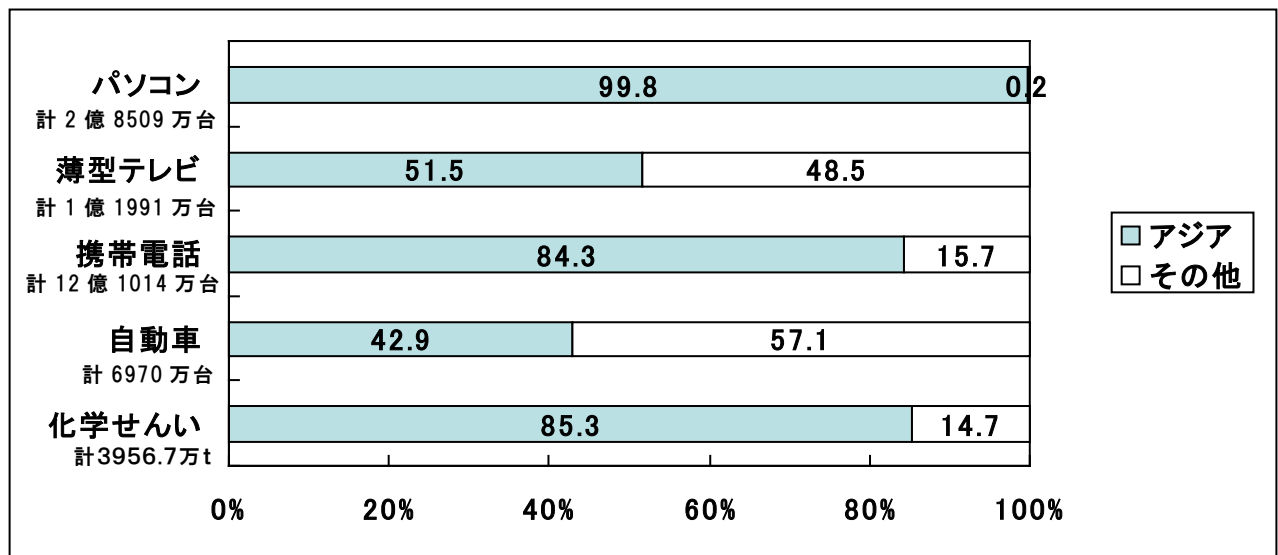
アジア NIES → (正式名称:)

加盟している国:

ASEAN → (正式名称:)

加盟している国:

◆おもな製品の生産量におけるアジアの占める割合 (世界自動車統計年報 2010 年版ほか)



【社会的な思考・判断・表現】[説明的知識:推理(分かる)](話す:グループ、書く:個人)

[作業③] ○グラフを見て、気が付くことを挙げなさい。また、世界の中でアジアがこれらの製品を生産できるのは、なぜですか?理由を答えなさい。

ワークシート③ 経済発展のいちじるしい東南アジア (教師用)

(発問・解答・評価規準)

1 農村のくらしの変化

【社会的事象への関心・意欲・態度】[記述的知識:事実判断(知る)] (書く:個人、話す:全体)

[作業①] ○アジア地域でさかんな農業とその変化について、下の語群から当てはまる言葉を選んで書きなさい。

大きな川の流域の平野やジャワ島などでは、**季節風** (モンスーン) の影響を受けて降水量が多く、(**稲作**) がさかんです。年2回、米をつくる (**二期作**) ができる地域もあります。

1970年代には、農業の近代化が進み、新しい品種がつけられたり、かんがい設備が整備されました。機械化によって人手が余ると、働く場を求めて多くの若者が農村から都市へと出て行きました。

マレーシアやインドネシアなどでは、**プランテーション(大農園)**がつけられ、ゴムやコーヒーを栽培しています。その一方、アブラヤシの農園にする大規模な開発が進み、(**熱帯雨林**) が減少するという問題も起こっています。

[問題の意図]

- ・農業の近代化による農村の変化、それに伴う若者の都市への流出を読み取らせ、都市問題などつなげる。
- ・資源の輸出国から、製品の輸出国へと変化していったことと対比させるため。

○関心・意欲・態度のとらえ方

「アジア地域でさかんな農業とその変化」という学習課題に対する関心の高まりを総合的にとらえる。この学習では、「アジア地域の農業」についてワークシートに記入し、その記入内容から、課題について資料等を活用し、追究しようとしているかを評価する。

(参考資料:『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校社会科)』
国立教育政策研究所 教育課程研究センターより)

2 アジアの産業の変化①

【社会的事象についての知識・理解】[説明的知識:推理(分かる)] (書く:個人、話す:グループ)

[作業②] ○アジア NIES と ASEAN について、正式名称と加盟国をそれぞれ書きなさい。

アジア NIES → (正式名称: **新興工業経済地域**)

加盟している国:

韓国、台湾、ホンコン、シンガポール

※ 20世紀後半に、急速な経済成長をした国・地域の総称。1979年、当時の発展途上国のうち石油危機以降も工業製品輸出の急増を通じて経済成長した10カ国・地域をOECDが報告書に取り上げたのがきっかけとなる。

ASEAN → (正式名称: **東南アジア諸国連合**)

加盟している国:

インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ブルネイ・ダルサラーム、ベトナム、ラオス、ミャンマー、カンボジア(2005年)10カ国

※ 東南アジア10カ国の経済・社会・政治・安全保障・文化での地域協力機構。工業化の進んだ東南アジアの国々では、自由貿易地区をつくり、外国企業を誘致している。

(単元の評価規準)

アジア州に暮らす人々の生活の様子、暮らしの変化についての的確に把握できる主題を基に、地域的な特色を理解し、その知識を身に付けている。

[評価規準をもとに、B評価となる根拠]

- ・アジア NIES と ASEAN についての正式名称、加盟している国や地域について、すべて記入できている。

[評価規準をもとに、A 評価となる根拠]

- ・アジア NIES と ASEAN についての正式名称、加盟している国や地域について、すべて記入できている。歴史的な背景や発足の目的にもふれることができている。

[評価規準をもとに、C評価となる根拠]

- ・アジア NIES と ASEAN についての正式名称、加盟している国や地域について、すべて記入できていない。

3 アジアの産業の変化②

[作業③]

【社会的な思考・判断・表現】[説明的知識: 推理(分かる)](話す: グループ、書く: 個人)

問: グラフを見て、気が付くことを挙げなさい。また、世界の中でアジアがこれらの製品を生産できるのは、なぜですか? 理由を答えなさい。

(単元の評価規準)

アジア州に暮らす人々の生活の様子、暮らしの変化についての的確に把握できる主題を基に、面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。

[評価規準をもとに、B評価となる場合]

パソコン、携帯電話、化学せんいは、80%以上をアジアの国々が占めている。自動車と薄型テレビについてもそれぞれ 50% 近くもしくは、50% を超えている。自分たちの生活にかかせない製品の多くが、アジアの国々で生産されていることが分かる。

アジアの国々は**豊かな資源にめぐまれ、外国の企業を受け入れやすくする政策や工業団地をつくった**りしたため。

[評価規準をもとに、B評価となる根拠]

- ・資源の豊富さ、外国企業の受け入れといった具体的な内容について述べるできている。

[評価規準をもとに、A評価となる場合]

パソコン、携帯電話、化学せんいは、80%以上をアジアの国々が占めている。自動車と薄型テレビについてもそれぞれ 50% 近くもしくは、50% を超えている。自分たちの生活にかかせない製品の多くが、アジアの国々で生産されていることが分かる。

アジアの国々は**豊かな資源にめぐまれ、外国の企業を受け入れやすくする政策や工業団地をつくった**りしたため。また、農業の近代化によって、農村から都市へ若者が流出したことや、**労働力となる人も多いこと**から、他の国と比べて、より安く製品をつくることのできるようになったため。

[評価規準をもとに、A評価となる根拠]

- ・地理的な条件についても、具体的に述べるできている。
- ・豊かな労働力といった点についてもふれるできている。

[評価規準をもとに、C評価となる場合]

多くの製品がアジアで生産されている。それは、アジアの国々は、**豊かな資源や労働力が多い**から。

[評価規準をもとに、C評価となる根拠]

- ・外国企業の受け入れといった具体的な記述ができていない。

ワークシート④ 経済成長がいちじるしい中国とインド (生徒用)

1 工業化が進むインドと中国

【社会的事象への関心・意欲・態度】[分析的知識:事実判断(知る)](書く:個人、話す:グループ)

[作業①] ○中国とインドの人口についてまとめよう。

	中国	インド
人口	() 億人 世界 () 位	() 億人 世界 () 位
人口の対策	() ※人口増加率は () いく傾向 にある。	() ※人口増加率は () いく傾向 にある。

[作業②] ○中国とインドの工業化について、次のような観点でまとめよう。

【社会的事象についての知識・理解】[概念的知識:推理(分かる)](書く:個人、話す:グループ・全体)

- どのような**産業**が発達していますか。
- なぜ**、経済成長することができたのですか。
- どのような**地域**が経済的に豊かになりましたか。
- 経済が成長した結果、どのような**課題**が見られますか。

	中国	インド
A 産業		
B なぜ		
C 地域		
D 課題		

ワークシート④ 経済成長がいちじるしい中国とインド (教師用)

(発問・解答・評価規準)

1 工業化が進むインドと中国

【社会的事象への関心・意欲・態度】[分析的知識:事実判断(知る)](書く:個人、話す:グループ)

[作業①] ○中国とインドの人口についてまとめよう。

	中国	インド
人口	(13) 億人 世界 (1) 位	(11) 億人 世界 (2) 位
人口の対策	(一人っ子政策) ※人口増加率は (下がり) いく傾向にある。	(対策はなく、出生率が高い。) ※人口増加率は (上がり) いく傾向にある。

(中国の人口についての課題)

- ・都市部では、一人っ子政策による急激な高齢化が問題になっている。
- ・甘やかされた一人っ子世代は、自立心が弱いとされている。
- ・農村部では人手として、跡継ぎとして男子を望む観念が強いため、女子の無戸籍児が急増した。
[一人っ子政策は、1979年に始まった。一人っ子の場合は、幼稚園・保育園の補助、教育の補助などを受けられるが、二人目を生んだ場合は、補助を受けられず減給などの罰則が科せられる。少数民族や内陸部の農村部に対しては、二人目の出産も認められたが、労働を求める農村では、ヘイハイズ(無戸籍児)が問題となっている。近年都市部で急激な高齢化が進んで、政策の見直しが行われている。上海では、第二子出産条件を撤廃している。]

(インドの人口についての課題)

- ・医療の普及などで死亡率が下がり、多産少死となって人口爆発が起きたが、現在は、教育の普及や福祉向上をめざす家族計画を進め、都市部を中心に出生率が下がってきている。それでも2040年代には中国を抜いて世界1位の人口になると予測されている。

○関心・意欲・態度のとらえ方

「中国とインドの人口」という学習課題に対する関心の高まりを総合的にとらえる。この学習では、「人口とその対策」についてワークシートに記入し、その記入内容から、課題について資料等を活用し、追究しようとしているかを評価する。

(参考資料:『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校社会科)』
国立教育政策研究所 教育課程研究センターより)

[作業②] ○中国とインドの工業化について、次のような観点でまとめよう。

【社会的事象についての知識・理解】[概念的知識:推理(分かる)](書く:個人、話す:グループ・全体)

- どのような産業が発達していますか。
- なぜ、経済成長することができたのですか。
- どのような地域が経済的に豊かになりましたか。
- 経済が成長した結果、どのような課題が見られますか。

	中国	インド
A 産業	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイテク（先端産業） ・情報技術（IT）産業 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報技術（IT）産業 ・自動車産業
B なぜ	<ul style="list-style-type: none"> ・外国企業を受け入れる経済特区（経済特別区） ・合併企業（中国と外国の企業） ・農村からの出稼ぎ労働者を雇った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米の企業の進出 ・技術者を育成するために国や州が援助
C 地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ペキン、ティエンチン、シャンハイ、アモイ、シェンチェン、 （共通点：沿岸部） 	<ul style="list-style-type: none"> ・バンガロール、ムンバイ
D 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・沿海部（都市）と内陸（農村）との経済格差 	<ul style="list-style-type: none"> ・農村と都市部の経済格差

【評価規準】

- 評価規準Bとなる根拠
 - ・産業の発達、背景、地域、課題について書かれていること。
- 評価規準Aとなる根拠
 - ・中国であれば、沿海部に企業を受け入れた理由（輸出に便利など）が明記されていること。
 - ・インドでは、英語力や数学といった教育的な水準の高さについても背景としてふれることができていること。
- 評価規準Cとなる根拠
 - ・産業の発達、背景、地域、課題について記述があいまいである。

【活用した資料】

- ・『中学校社会科地図』帝国書院（資料図：鉱工業・経済格差にふれているもの）
- ・『世界国勢図会』矢野恒太記念会 国勢社

【今日の学習のまとめ】 ※ 中国とインドの経済発展の背景として台湾を取り上げる。

台湾は、コンピューターや半導体などの（ **ハイテク** ）産業が世界的にさかんです。こうした成長は、アメリカの（ **シリコンバレー** ）で働いていた人々が台湾に戻って、会社をつくったことがきっかけでした。

このように中国系[**華人**]やインド系の人々は、世界で広く活躍しています。

また、情報産業の成長に重要な役割を果たすだけでなく、情報技術を身に付けたインド人は、アメリカ、ヨーロッパ、日本などで貴重な人材として注目されています。

ワークシート⑤ 多様な民族と経済成長 (生徒用)

1 西アジアと中央アジアの特色

【資料活用の技能】【記述的知識:事実判断(知る)】(書く:個人、話す:グループ)

- [作業①] ○西アジアと中央アジアの特色についてまとめよう。
- A. それぞれの地域を構成している**国名**を書きなさい。
 - B. どのような**資源**がありますか。
 - C. **宗教**は何ですか。

	西アジア	中央アジア
A 国名		
B 資源		
C 宗教		

【社会的な思考・判断・表現】【規範的知識:推理(分かる)】(書く:個人)

[作業②] ○これまで学習した内容をもとに、自分の考えをまとめましょう。

【テーマ】アジアの急速な工業化と課題について

(条件:具体的な国や地域、産業の特色、背景、課題について書かれていること。)

ワークシート⑤ 多様な民族と経済成長 (教師用)

(発問・解答・評価規準)

1 西アジアと中央アジアの特色

【資料活用の技能】 [記述的知識:事実判断(知る)] (書く:個人、話す:グループ)

- [作業①] ○西アジアと中央アジアの特色についてまとめよう。
- A. それぞれの地域を構成している**国名**を書きなさい。
 - B. どのような**資源**がありますか。
 - C. **宗教**は何ですか。

	西アジア	中央アジア
A 国名	アフガニスタン、イラン、イラク、アゼルバイジャン、アルメニア、グルジア、トルコ、キプロス、シリア、レバノン、イスラエル、ヨルダン、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、アラブ首長国連邦、オマーン、イエメン、パレスチナ	カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン
B 資源	石油、天然ガス、クロム	石炭、石油、天然ガス、希少金属(レアメタル)
C 宗教	イスラム教	イスラム教

(補足として)

中国であれば、9割を占める漢民族のほかに、55の少数民族がいること、多様な宗教にもふれる。特に、アジアの多様性(多民族国家が多いこと、宗教の違いなど)については、「西アジア」「中アジア」、「中国」「インド」を扱うときには、触れておくこと。

(単元の評価規準)

アジア州の地域的な特色に関わる様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して読み取ったり、図などにまとめたりしている。

[評価規準をもとに、B評価となる根拠]

- ・西アジアと中央アジアの国名について、半数以上挙げることができている。
- ・主たる資源や宗教について、挙げることができている。

[評価規準をもとに、A評価となる根拠]

- ・西アジアと中央アジアの国名について、すべて挙げることができている。

[評価規準をもとに、C評価となる根拠]

- ・西アジアと中央アジアの国名について、半数に満たない数であること。
- 石油、希少金属(レアメタル)といった資源について挙げられていない。

【社会的な思考・判断・表現】[規範的知識：推理(分かる)](書く：個人)

[作業②] ○これまで学習した内容をもとに、自分の考えをまとめましょう。

【テーマ】 アジアの急速な工業化と課題について

(条件：具体的な国や地域、産業の特色、背景、課題について書かれていること。)

【評価規準】

○評価規準Bとなる根拠

- ・具体的な国や地域、産業の特色、背景、課題について書かれていること。

○評価規準Aとなる根拠

- ・産業の特色や背景、課題について同じような特色が見られる国や地域を取り上げていること。

○評価規準Cとなる根拠

- ・具体的な国や地域、産業の特色、背景、課題のいずれかの項目についてあいまいな点があること。

(解答例)

- ・ASEAN 諸国は、資源の輸出国から、**家電製品といった機械の輸出国**へと変化し経済発展している。このような背景には、**外国企業の進出をうながす政策や工業団地**をつくったことが挙げられる。また労働力が多いということも挙げることができる。課題は、急速な経済成長に都市の整備が追いつかないこと、**工業化の進んだ地域と進んでいない地域との経済格差**が挙げられる。
- ・中国は、**ハイテク（先端技術）産業、情報技術（IT）産業**が発達している。背景は、**沿海部に経済特区（経済特別区）を設けたり、中国企業と外国企業との合弁会社**をつくるなどして工業化を進めたことが挙げられる。しかし、一方では**沿海部と内陸部の経済格差**が課題となっている。
- ・インドでは、**情報技術産業や自動車産業**が発達している。背景は、**労働力の多さ**と、情報技術産業を支える**英語や数学の教育水準の高さ**が挙げられる。課題は、**農村と都市部の経済格差**である。